

# いの流水俳壇

松尾 満津於 選

## 「当季雑詠」

砂浜の記憶を攫う夏の波

刈谷 志津

〔評〕夏の砂浜は其処に遊び浜を利用する、親たち、子供たちにとつて手近で、最もすぐれた憩いの場所である。山には何県何村、或は誰々が持ち主といった所在があるが、海は誰のものでもない。一度波に攫われた砂浜は、再びもと通りにはならなくても夏の郷愁は残る。

丑年のわたし無口に大暑越す

井上 郁子

〔評〕大暑はきびしい暑さ、陽暦で七月二十二、三日頃、一年中で一番暑い時である。丑年でも矢張り暑いのは身に堪える。口に出しても出さなくても、夏はどうしようもない。あなたも丑年、私も同じおたがいに愚痴はこぼさないで頑張ろう。泣きごとを云つても、大暑の時は暑いのです。

想うこと遠くおく夜の星今宵

伊藤 たみ

〔評〕作者の生家は平和な山村（いの町の一角）である。作句の現住所とは環境を全く異にしている。故郷を遠くにして、今更考えることも多いだろうが、どうしようもない。「星今宵」とあるところから無月の銀漢。

峡の径霽たちこめる鹿の子百合

筒井 正子

〔評〕空中にたちこめる、霧または煙霧のことを「霽」というが、季節に関係なく、霧よりも視界のきくものを称して云ったものである。その径筋に咲いている百合の仲間、滝の附近で見受けられる、山百合・姫百合・鬼百合・白百合などの百合と共にそれぞれ趣と姿を少しずつ異にして咲く、鹿の子百合は中でも特に多くの人々に親しまれた百合。

キャンパスの画布夏色を塗り込める

筒井 一平

〔評〕内容もその場面もよく理解できる句であります。抽象的には理解できても具体的に何色を何処に使用するのか、背景・主題など。それが理解されたとき、この句はすばらしい句になります。

拍手に炎暑を払う杉木立 友草 水月

被爆者も古い訥々と広島忌 竹崎 光子

サンガラス別の世界の見えて来し 岡本とも子

派手を服着せて案山子のこちら向く 津田 久美

祖の植えしくちなし明治を匂わせる 片岡 包女

海水浴孫は元氣だ爺ぐったり 森岡 照月

児と囲む線香花火の静寂かな 大川 節弥

夏休み富士八合目より便りかな 弘瀬うき子

置き忘れられたる如き梅雨の雲 松尾満津於

### 次 題 「秋の夜」

秋になれば夜は段々長くなり、月は澄み蟲は鳴く。秋の宵は秋の夜の未だ浅い間をいふのである。

#### ■ 例句 ■

「秋の夜や蒲団をしきに男来る」

締め切り 毎月第2月曜日

### 投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

お知らせ

## 秋の「緑の募金」へご協力を!

9月1日から10月31日は、秋の「緑の募金週間」です。

地球温暖化の影響が色々な方面で問題となっている今日、二酸化炭素を吸収する森林・木への期待は高まる一方です。この秋、「緑の募金」でふせごう 地球温暖化 2009 秋」をスローガンに、全国一斉に募金活動を展開しています。皆様方から寄せられた寄付金は、公益社団法人高知県森と緑の会を通じ、県内の森林の整備、緑化の推進、子どもたちの木や森とふれあう機会の提供、公募による森林ボランティアや市町村の緑化活動への助成等、皆様方の身近なところで活用されています。緑の募金への寄付は産業経済課・吾北総合支所産業課・本川総合支所産業建設課で受け付けていますのでご協力をよろしくお願いたします。

### 問い合わせ

産業経済課

☎ 893-1115

吾北総合支所産業課

☎ 867-2313

本川総合支所産業建設課

☎ 869-2115

